
とある魔術のお笑い目録

ハムカッタ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある魔術のお笑い目録

【Nコード】

N8886V

【作者名】

ハムカッタ

【あらすじ】

とある魔術の禁書目録のあのシーンをギャグパートに変えたりオリジナルシーンを元にしたとある魔術の禁書目録のギャグです。どうかお楽しみください。

面白くなかったら辛口評価も構いません。

この作品はとあるのあのシーンにギャグを入れようと思っています。
苦手な人はやめてください。

ステイル編

ステイル「ステイルと真名を名乗りたいとこだけど、ここは魔法名を名乗らせてもらおうかな。」

そうその赤毛の魔術師、ステイルは挑発的に言った。こんな状況で魔術師だなんていうわけのわからない奴ら相手にいうことではないだろうが、上条は思わず言ってしまった。

上条「おい、待て。本名を名乗らないとか言ってるけど本名を名乗ってるじゃねーか。ステイルって本名だろ？」

ズコツというリアクションと共に思わず転びそうになるステイル。まさかそれをツツこんでくる奴がいるとは思わなかったのだ。

ステイル「まあそれはともかくだね、僕の魔法名は……」

上条「無視すんな、答えろ。本名名乗らないっているんだから偽名か、まさか本当に本名じゃないよな。」

本名だとしたら間抜けだぞ。」

ステイル「ええい、格好いいからじゃないか。」

上条「何だと、ふざけんなプロが格好いいからって理由でんなことするんじゃない。」

そのまま口論を続ける上条とステイル。その口論の間にインデックスからなおも血が流れ続け、我に返った2人は死にかけたインデックスを救うためにステイルが治癒の魔術を行ったが治療の後に上条に徹底的にボコボコにされてしまったのだ。ボコボコにされた際に本当の思いを言ってそれが元で上条が首輪に気づいたのだが、ボコボコにされたステイルは生涯の人生で上条をうらみ続けることになるのだった。

一方通行編

学園都市最強の超能力者、レベル5の第1位一方通行はその少女が衣服代わりに来ているマントを剥ぎ取った。これは、なにも他意があったわけではない。本当は心の奥底では自分が強力な能力を持っているから他人を傷つけないという思いから参加したとはいえ結局虐殺になってしまった妹達シスターズを使った実験を後悔しているのだ。

これは、彼女が生き残りの御坂美琴のクローンではないかと確認するための処置だった。が、それはどこからどうみても幼女を襲っている凶柄にしか見えなかった。そして・・・

通行人A「おい、ロリコンだ。ロリコンがいるぞ。子供を襲ってる。」

通行人B「アンチスキルを誰か呼べ、変態がいるぞ。」

通行人C「子供が好きってマジでひくわ・・・」

そう周囲の人間からロリコンだと主われってしまったのだ。

一方通行「おい、これはそんなじゃなえ。第一俺にそんな趣味はない。」

一方通行は反論するが流石の学園都市第1位も周囲の人間からジト目で視られ無言の圧力をかけられることには耐え切れずそのまま打ち止め（ラストオーダー）をつれて離れるのだったがそれ以後第1位はロリコンであるというロリコン伝説が学園都市の都市伝説となったのだった。

木山編

学園都市を襲った悲しい幻想御手事件。レベルアップそれは、決着を迎えた。そして事態の黒幕木山春美はアンチスキルへ連行されようとしていた。御坂「木山先生、最後に一ついいですか？」

木山「何だい？」

御坂「先生って学園都市外部にいたんですよね？それならこんな事件を起こすよりも外部に情報リークしたりしたほうがよかったと思

うんですが、そんなこともできないほど学園都市は強力なんですか？」

木山「あ、それに気づかなかったわ・・・」

そう木山は幻想御手事件を起こしたのは子供たちを救いたいという思いからだった。だが、それは木山自身が間抜けだったことからもきていたのだった。

御坂編

御坂「さて、今日もあいつとの勝負を挑むわよ。レベル0（無能力者）に負けたんじゃ私のレベル5（超能力者）としてのプライドは傷ついたままなのよ。」

学園都市第3位^{エレクトロマスター}発電能力者の御坂美琴は、ここ数ヶ月ある少年を追いかけて回っていた。それは、自分の能力を学園都市で底辺に位置する存在に無効化されてしまったから来ているのだが当の少年（上条当麻）からすればたまったものではない。お人よしも彼も遅すぎるといえば遅すぎるが、非常手段をとっていた。それを彼女は知らない。

アンチスキル「御坂美琴さんですか？アンチスキルのものです。」

御坂「ええ、はい私が御坂です。あ、木山先生の件ですか？」

彼女は木山春美の引き起こした事件の証言か何かだろうと思って答える。実際は違うのだが・・・

アンチスキル「いえ、あなたを重要参考人としてアンチスキルの施設まで来ていただきます。容疑は、上条当麻さんへの暴行、殺人未遂罪、器物損壊そのほかもろろです。」

上条がとった手段とはアンチスキルに彼女に付け回されていると訴えることだった。それを聞かされた彼女はというと・・・

御坂「あの馬鹿、よくも。」

アンチスキルに通報されたことで激昂した彼女は、激情のあまりアンチスキルに至るまで電撃を浴びせてしまった。だが、それは彼女をさらに追い詰めることになる。

アンチスキルB「仲間が襲われてるぞ、助けに行くぞ。」

アンチスキルC「公務執行妨害罪だ。」

周囲に万一逃走などにそなえ待機していたアンチスキルの集団が彼女を包囲する。その後、アンチスキルに逮捕された彼女は危ういところで少年院行きをさけるのだった。

初春編

白井「始春、長い付き合いですけど頭の飾りって本当に飾りなんですか？木山先生が言ってたみたいに能力と関わってたりしませんの？」

ジャッジメント

風紀委員の支部で平和なのはいいのだが手持ちぶさたな白井黒子が尋ねる。実際はそんなことないと分かっているのだが。

初春「実はこれは……………」

それを聞いた初春は重々しい口調で話始めた。

まさか本当に秘密がと思う黒子だがその答えは……………

初春「実はこれ身代わり防壁なんです。私がウィザード級ハッカーなのは電脳化っていう極秘の技術のお陰なんです、攻性防壁ってセキュリティがあってそれから身を守る必要があるんです。」

白井「だあっ！！それは攻殻機動隊ですよ！！私たちとはとある魔術ととある科学のキャラですよ！！」思わず爆弾発言をする黒子。

初春「白井さん、それは私たちがいっちゃいけない台詞ですよ……………」

白井「じゃあ何の秘密もありますんの？」

初春「決まってるじゃないですか。」

そう初春は答え黒子はそれに納得した。

しかし黒子はキーボードを介さないで初春がパソコンを操るのを知らない……………

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8886v/>

とある魔術のお笑い目録

2011年10月8日19時22分発行